

## 呼吸器内科 初期臨床研修プログラム

### 到達目標

- ・呼吸器内科領域で遭遇する急性疾患、common diseaseを多く経験し適切な初期対応ができる診療能力を身につけること。
- ・胸腔穿刺、胸腔ドレーン挿入、中心静脈カテーテル等の適応を自身で判断し、安全かつ適格な手技・処置を習得すること。

### 研修方略 (LS : Learning Strategies)

#### ***【On the job training(OJT)】***

##### **LS1: 病棟研修**

- ・担当医として入院患者を受け持ち、主治医（指導医、上級医）の指導のもと、診察および入院治療に関わる。毎日回診を行い、指導医と方針を相談する。特に2年次研修においては、検査、治療などの指示を主治医の指導のもとに積極的に行う。
- ・その前日の当直帯で入院した患者をその日の午前中対応の呼吸器内科緊急当番医師が対応するので、その患者について一緒に担当医として診断・治療を行う。
- ・胸腔ドレナージの施行に立ち会い、見学、介助を行う。ドレナージの適応、合併症およびその後の対応を十分に理解できたら、主治医の指導のもと実際に施行する。
- ・気管支鏡検査に立ち会い、麻酔、器具出しなどの補助を行う。
- ・インフォームドコンセントの現場に立ち会い、簡単な事項については主治医の指導のもと自ら行う。
- ・診療情報提供書、証明書、死亡診断書などを自ら記載する。（ただし、主治医との連名が必要。）
- ・入院診療計画書/退院療養計画書/退院サマリーを主治医の指導のもと、自ら作成する。

##### **LS2: 外来研修**

- ・初診患者の問診診察 検査(血液検査、画像検査)を呼吸器内科当番医師の指導のもと行い、検査治療計画立案に参加し診療後にfeed backを受ける。
- ・指導医の再診患者の診察に立ち会い見学を行う。

#### ***【Off the job training(OffJT)】***

##### **LS3: カンファレンス**

- ・毎週水曜日17時からの呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科と合同カンファレンス 及び、水曜日16時からの呼吸器内科カンファレンスで担当患者の症例呈示を行い、問題点などのプレゼンテーションなどに慣れる。

- ・毎日朝10時より行われる9階病棟の医師、看護師、コメディカルでの各受け持ち患者のカンファレンスに出席し、看護師、リハビリ、栄養士、MSWとの連携を密にし、情報を共有する。

#### **LS4：勉強会**

- ・不定期に行われる院内外研究会にも積極的に参加する。

### **V. 評価(Ev : Evaluation)**

#### 1. Communication skill (行動目標)

- 1) 良好な患者医師関係が構築できる
- 2) 他の医師（先輩医師、指導医）と適切に相談できる
- 3) メディカルスタッフと適切にコミュニケーションがとれる

#### 2. Medical skill (経験目標)

- 1) 十分な問診が出来る。十分に理学所見がとれる
- 2) 鑑別すべき疾患が十分に挙げられる（特に忘れてはならない疾患）
- 3) 胸部レントゲンの読影
- 4) 血液ガス分析の解釈
- 5) 呼吸機能検査の解釈
- 6) 感染症の必要十分な診断と適正な治療
- 7) 外来治療が可能な疾患の治療
- 8) 手技（動脈血採取、胸水穿刺、胸腔ドレーン挿入、中心静脈カテーテル）

#### 3. Academic skill

- 1) 適切な症例提示（プレゼンテーション）
- 2) 鑑別診断と診断確定に至るまでの検査過程（思考過程）の勉強
- 3) 症例報告をまとめる事が出来る（学会症例発表レベル）

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金
早朝					
午前	病棟 病棟カンファ (10:00～)	病棟 病棟カンファ (10:00～)	外来/病棟 病棟カンファ (10:00～)	病棟 病棟カンファ (10:00～)	外来/病棟 病棟カンファ (10:00～)
午後	病棟 気管支鏡検査	病棟 気管支鏡検査	病棟 気管支鏡検査 ・呼吸器カン ファレンス ・合同カンフ アレンス	病棟 気管支鏡検査	病棟 気管支鏡検査
夕刻					

〈 Message 〉 ～呼吸器内科としての役割～

病棟や外来診療で対応する頻度の多い肺炎治療の実践や喘息診療やがん治療について外来や病棟主治医とともに診療にあたり経験を高めてほしいです。

今後も高齢者の比率が増えてくるに従い肺炎や肺がん患者数は増加が予測されます。

また、当院の様に複数人の呼吸器常勤医師のいない病院も一般的に多く存在しています。

もし、そのような病院に勤務するようなことがあっても当院での研修の経験を生かしてもらえればと考えます。